

いかに自分の気持ちに正直に生きるか

JAL不当解雇撤回争議団

西予市在住

大池ひとみ

新年あけましておめでとうございます。年内解決をめざしてがんばってきましたが、ついに10年目に突入してしまいました。毎年毎年「今年こそ」と思つて気がついたら、ここまできてしまったという感じです。

解雇された直後に生まれた原告のお子さんは小学生になり、自分では当時のままのつもりでも、過ぎ去った年月は無情にもさまざまな変化をもたらしてくれています。外見も体力もずいぶん厳しくなりましたが、当時の不當に解雇されたときのくやしさ、腹立たしう感じです。

さ、怒り、人間としての尊厳を傷つけられた悲しみは今でも変わらず、それがあるからこそ、頑張つていらるると思っています。新しい年を迎えて最初の支える会ニュースなので、おめでたいテーマを選びたかったのですが、これを書くのは今しかないと思つ

(裏面に続く)

2020.1.13



「JALは五輪前に165名の解雇争議を解決せよ!」の懸垂幕をバックに

JAL愛媛原告を支える会
あの空へ
帰ろう

ニュース

発行：JAL不当解雇とたかう愛媛原告を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内
松山市三番町8-10-2 TEL 089-945-4526

私も
応援します



我が家の正月の屠蘇は「そら」の二人舞台で

松山市在住 山本 翠



我が家元旦は、息子の家族など4世帯13人が一堂に会し、賑やかに新年の屠蘇を祝いました。各々の盃に満たされたのは、JAL争議団支援の純米酒「そら」。ひとくさり争議団の闘いぶりを紹介しての乾杯となりました。甘くてキュッと来る喉越し。10年目に入るJALの仲間の不当解雇撤回闘争。今年こそ、全国の仲間と甘くてキュッと来る勝利の乾杯を挙げたいと切に願う年明けです。

私はこれまで何回となく行ってきた海外旅行でJALのお世話になってきました。特に、1987年のニカラグワ訪問の長いフライトで、お世話になった客室乗務員の方が、腰痛に苦しみながら勤務しておられて、その勤務条件の厳しさに怒りを覚えたことが忘れられません。

当時は、女性の職業の花形と思われていた「スチュワーデス」。その後、日航のずさんな経営から数々の不祥事が報じられる度にあの時の乗務員のことが思い起こされ、不当な経営者と闘う仲間に心を寄せてきました。そして、外国の飛行機に乗る度についついその乗務員のありよう目に行くようになりました。高いところに手を伸ばしたり、重いものを扱う乗務員は男性が多いこと、決して客にへつらう姿がないことなど。

世界中の空を飛ぶJALのありようは、日本の姿そのものもあると思います。その経営や運営に差別や人

権侵害、女性蔑視があるとしたら、それは日本の恥ともなりましょう。私自身長年、労働運動、女性運動に関わって生きてきて、人間の尊厳を守る闘いの清々しさも経験してきました。

今、JAL争議団の方々の真摯で神々しくもある闘いの姿がまぶしくさえ見えます。今年が闘いの最後の年になることを願ってやみません。そして人権侵害にあってことすら自覚させられず働くかれている仲間の人権の覚醒になる闘いでもあると思っています。

全国の支援の仲間たちと勝利の乾杯を！

西予市在住

2020年1月20日

意志半ばで力尽きた仲間、久保田純子さんが逝つてから今年の7月で8年が経ちます。愛媛でもお世話になつた尊敬する方々を何人も見送りました。そして、昨年9月、とても残念な訃報を受け取つたのでした。



「著名人が語る猫ラブ物語」

皆さん、「堀の中の懲りない面々」という小説をご存知でしょうか？拳銃不法持等で実刑判決を受け、4年間を府中刑務所で過ごした経験を描いた安部譲二さんの作品です。

安部さんは、実は私たちの先輩になります。1961年から4年間、日本航空の客室乗務員として世界を飛び回つていらつしやいました。安部さんは、中学時代から反社会的勢力の仲間入りをされ、本当に波乱万丈の人生を送られました。そのヒストリーは、安部さんのオフィシャルブログ「大人気ないオトナ～安部譲二～あんぽんたん日記」をご覧いただければよくわかります。父親の仕事の関係で幼いころ（ちょうど第二次世界大戦のさなか）、ヨーロッパで過ごされました。その後、日本に戻り麻布中学に入られたものの中退され、イギリスの学校に。その後の職業は多種多彩、作家になられたのはだいぶあとになつてからのことです。

なぜわたしが安部さんのことを書きとどめておきたかったかといふと、安部さんは無類の猫大好き人間だったからです。安部さんのことを悪く思う人も世の中にはいるかもしれません、が、彼の本を読む限り、猫に対する愛情は半端なく、これほどピュアな心を持つた

人、思つたままのことをストレートに出される人、人生を思うように豪快に生きた人はこの先出で本当にお世話になつた大好きな先輩の一人です。

ある夏の夜、千葉のとある道路を走つていたら、猫が轢かれていたのを発見。そのまま見過ごすことができず、車を脇に止め、見知らぬ家人からスコップを借り、埋めてあげようと道端に穴を掘つていると、パトカーがやつてきて職務質問されたというエピソードの持ち主です。真っ暗な道路脇でタンクトップにショートパンツの若い女性が必死でスコップを持つて穴を掘つていたら、事件だと思つちゃいますよね。

動物をかわいがる人に悪い人はいません。



左側が「ウニ」

一番最初に支える会に投稿したとき、今住んでいる古民家と、後ろ姿の哀愁ただよう猫の写真を載せたことを覚えていらっしゃる方はおいででしょうか？あの猫は、千葉の野良猫だったのを、別の猫

人生、いつ何が起こるかわからぬ中で、いかに自分の気持ちに正直に生きるか、いかに思つたらましんでした。悲しみに沈んでいたらつしやるママのそばで、ウニはシャルで元気な姿を見せてくれています。ハニイは6年前の春、猫エイズで天国に旅立ち、次はウニの番かなあと覚悟をしていたので、まさか、安部さんが先にお亡くなりになるとは夢にも思つていませんでした。悲しみに沈んでいたら、安部家の長男として立派に役目を果たしてくれていると信じています。

人生、いつ何が起こるかわからぬ中で、いかに自分の気持ちに正直に生きるか、いかに思つたらましんでした。悲しみに沈んでいたら教わったような気がします。大酒飲みの安部さんが、最後に奥様に言つた言葉が「ジュースが飲みたい」だつたことを知り、なんとお茶目な方だろうと。そういう人生、素敵です。

この先、どういう結末が待つているかわかりませんが、悔いなく精いっぱいやつた、と言い切れる闘いを今後も続けていきます。

皆様のお力を背に受けて、きっと今年こそ、解決を！！

千葉の後輩が広く募集をかけてくれたところ、安部譲二さんが本航空時代の同期の方が安部さんにその写真を見せ、「この猫がほしい」と即決されたというのです。

「ウニ」と名付けられたハニイの息子は、東京の家にもらわれていったその日から、3日3晩泣き続け、3日経つたあと、ぴたりと泣き止んでごはんがほしい、と言つたそうです。それ以来ウニは、立派に安部家の一員となり、安部ウニとして、テレビや雑誌やコマーシャルで元気な姿を見せてくれています。ハニイは6年前の春、猫エイズで天国に旅立ち、次はウニの番かなあと覚悟をしていたの

で、まさか、安部さんが先にお亡くなりになることは夢にも思つていませんでした。悲しみに沈んでいたら教わったような気がします。大酒飲みの安部さんが、最後に奥様に言つた言葉が「ジュースが飲みたい」だつたことを知り、なんとお茶目な方だろうと。そういう人生、素敵です。